

KPECnews

Kitakyushu Prosperity Enrichment Council

Vol.59

2014.6.1

c o n t e n t s

- 01-02 世界に広がる北九州の明日を考える講演会開催
- 03 産業人材育成フォーラム事業3年目を迎えて
- 04 小学校応援団 活動報告
- 05 1000人の夢資金
- 06 もったいない総研の活動
- 07-08 北九州イノベーションギャラリー 活動紹介
- 09-10 公益財団法人 北九州活性化協議会
平成26年度事業計画



公益財団法人 北九州活性化協議会

世界に広がる北九州の 明日を考える講演会の開催



(公財)北九州市活性化協議会設立25周年記念「世界に広がる北九州の明日を考える講演会」を、平成26年3月7日、北九州国際会議場で開催した。講師は、独立行政法人科学技術振興機構研究開発戦略センター長の吉川弘之氏。東京大学総長、日本学術会議会長等を歴任した我が国の学術界のトップリーダーによる講演とすることで、400人を超える参加があった。演題は「今後の我が国の科学技術イノベーションと工業都市ー北九州への期待」。これからの産学連携に対する示唆に富んだ提案や「北九州全体が持っている産業力を最高に発揮するためのネットワークづくりを追求しよう」という呼びかけは、参加者に勇気と感動を与えた。

ものづくりの街・北九州の知と行動の統合を

独立行政法人科学技術振興機構 研究開発戦略センター長 吉川弘之氏が講演

世界に広がる北九州の明日を考える講演会

「今後の我が国の科学技術イノベーションと工業都市 — 北九州への期待」

独立行政法人科学技術振興機構研究開発戦略センター長、吉川弘之氏は平成26年3月7日、「今後の我が国の科学技術イノベーションと工業都市-北九州への期待」と題して、北九州市の北九州国際会議場で講演した。世界の多極化と社会の多様化、そして、経済のグローバル化の進展の中で、今後、技術立国・日本、ものづくりの街・北九州市の向かうべき方向を指摘。さらに、科学技術に対する社会的な期待を踏まえ、持続可能な社会のための科学技術のあり方や科学技術イノベーションの大切さを強調した。「世界に広がる北九州の明日を考える講演会」として、(公財)北九州活性化協議会の設立25周年記念の講演会として、同協議会が中心となり、北九州市の経済団体で構成する北九州地域経済団体連携フォーラムの共催で開催した。講演の要旨を紹介する。

高度経済成長時代の日本は イノベーション大国だった

イノベーションとは、もともと経済学の言葉です。「従来の富を生み出す一つの仕組みを壊しながら、新しい経済的価値を生み出すものをイノベーションと呼ぶ」と定義されています。私は、イノベーションとは別に新しいことでもなんでもないと思っています。日本では1960年から1990年代の高度経済成長時代に、すでにたくさんのイノベーションが行われていたのです。例えば旧国鉄が鉄道研究所を中心に新幹線を作り上げていく歴史。企業と研究所が連携して技術開発を行い、世界に類のない高度な制御システムを持った安全性の高い高速鉄道を作った。過去になかった交通の方法を発明し、それを使い、日本の産業に貢献したということですから、これはイノベーション以外の何物でもないのです。

その頃の日本は、産学連携が非常にうまくいっていました。しかも、産学の間を取り持つ政府の存在がありました。1970年から1990年にかけて、我が国では大型の公共研究が盛んに行われており、宇宙分野では、宇宙科学研究所等による人工衛星の打ち上げ、海洋分野では海洋科学技術センター等による海洋探索、フロンティア開拓といった成果をあげていました。

さらに国家産業プロジェクトとして、地熱、太陽光発電の基礎研究と応用研究を行うサンシャイン計画、ヒートポンプや燃料電池の基礎研究と応用研究を行うムーンライト計画というものがありました。これらのプロジェクトにより、省エネ機器作りの基礎が築かれ、それは現在の我が国が有する太陽電池や省エネ機器生産能力の世界的優位性につながっているのです。当時の科学研究の成果は産業に浸透していました。それは一つのプロジェクトに産業界、大学、研究所から優秀な人材が集まり、三者が寝食を共にして新しいテーマを考え、研究を続けたからに他なりません。日本がまだまだ貧しかった頃、この国を良くしようという国の政策があり、それに予算がつけられ、企業、大学、研究所が、「国が何をやりたいのか」を正しく理解して、その金を上手に使い新技術を作ったという時代がありました。そこで、私が言いたいのは「私たち日本人一人ひとりのアビリティは非常に高い。だから、やればできる」ということです。1990年代以降の我が国の停滞を指す「失われた20年」という言葉があります。何を失ったのか。問題は何か。その一つの例が、「産と学が、能力や知識を結集し協力する仕組みを失った」ということなのではないでしょうか。



独立行政法人科学技術振興機構 研究開発戦略センター長

吉川 弘之 氏

1933年、東京都生まれ。56年東京大学工学部卒。(株)科学研究所入所。78年東京大学工学部教授就任。93年、東京大学総長、97年日本学術会議会長、国家産業技術戦略検討会座長、日本学術振興会会長、01年(独)産業技術総合研究所理事長、05年皇室典範に関する有識者会議座長、09年(独)科学技術振興機構研究開発センター長を歴任。著書は「科学者の新しい役割」「ロボットと人間」「テクノロジーと教育のゆくえ」など多数。

日本人には世界70億人と言う 共同体の先頭を走る責任がある

ある予測によれば、日本の国民総生産は、2050年までに、インド、ブラジル、メキシコ、ロシア、インドネシアに抜かれ、現在まで経済10%国家といていた我が国は、3%国家という、小国の一つとなってしまおうと言われています。今の3%国家というスペインですね。しかし、そういう存在感になってしまうのかと言うと、それは違うと思います。今、世界70億人の生活水準は驚くほど向上しています。それは多くの国が、1960年代に始まる日本の高度経済成長時代の駆動力であった「生産技術に基づく生産性向上による産業力強化」を手本とした結果なのです。我々日本人は、生産技術で進化していく社会の持つ問題を先行して知っているわけですから、世界70億人という共同体の先頭を走る責任があります。

現在、日本の社会、そして世界は様々な問題に直面しています。例えば、温暖化の問題。これを解決するためには、「環境問題を全体としてとらえること」が大切であると考えます。温暖化について、空気の研究者と気候の研究者が、熱についてそれぞれ別の研究を行うのではなく、互いに連携することにより「炭酸ガスの削減」というテーマが生まれました。そして、世界各国の政治家が政治サミットと言う場で排出量の上限を決めました。さらに経済界は排気ガス削減の商業マーケットをつくりました。このように科学者と政治家と経済が協力して温暖化を止めようとしています。これはものすごく立派なイノベーションだと思います。イノベーションと言うのは一つ一つ細かく深く掘り下げられた研究で生まれてくるものではなく、多くの研究がまとまって出てくるものです。

今、世界は、このようなイノベーションが出てこなければ物事がおさまらないところまで来ているはずだ。

新しい産学連携により道を作る

21世紀に入ると、日本のイノベーションというものは一遍になりました。一方大学では1996年以降、科学技術基本計画により多額の基礎研究費が投入され、基礎研究が多くなり、日本の研究水準は非常に上がりました。しかし、その中で大学は、「行きすぎた論文競争」に没頭してしまい、社会のことを忘れてしまうようになったのです。やがて高度経済成長時代に存在していた「大学から産業へ知識を流す仕組み」がなくなっていました。

産業は非常に競争が厳しくなり、基礎研究所もどんどん廃止される中、世界変化に対応する大変化を成し遂げられなくなったのです。21世紀における日本のイノベーション低迷は、産学連携の低迷に起因していると言っても過言ではありません。

これからは、新しい産学連携はどうあるべきかを考え、新しい産学連携により道を作ることが大切です。そこで産学連携に求められる変化についてお話ししたいと思います。イノベーションが起こるためには、基礎研究がまず存在し、そして、企業による製品化研究がある。その製品が社会に受け入れられて、イノベーションが起こるということになります。しかし、この流れの中に障壁があるのです。1つは製品化するための技術的障壁。そして、製品化できても社会に広がっていかない社会的障壁です。良い研究があるけど、製品ができないということや、製品ができたけど世界的なマーケットの主導権がとれないと言った状況が存在しています。それを変えるために私は、基礎研究の次に新しい基礎研究を、製品化研究のあとに社会的同化をそれぞれ行い、つなげていくことを提案しています。基礎研究と製品化研究の間に行うべき新しい基礎研究を「第2種の基礎研究」と定義し、その研究を研究法人や独立法人の研究所に担ってもらうというものです。かつて私が独立行政法人 産業技術総合研究所に所属していた時、若い研究者たちにこの「第2種の基礎研究」をやろうと呼びかけました。何度も説明するうちに、彼らは「研究と言うものは社会に役立たなければいけない」ということに気づき、次第に「やりたい」と名乗り出る人が出てきて、結果として60人の研究者を集めることができました。そして、これらの第1種基礎研究、第2種基礎研究、製品化に至る研究を同時に一貫して行うことを「本格研究」と名づけました。

北九州の科学・工学と産業を 統合しイノベーションを起こす

次に科学・工業と産業の統合についての話をしたいと思います。国際的健康産業の創出を行う場合、大学では医学や理工学や農学が連携しなければならないように、産業界も大学と機器メーカー、材料メーカー、情報企業、保険会社と連携しなければ新しいイノベーションが起こるはずはありません。ですから「北九州市にどのような産業があるのか」「北九州市以外との協力」「国際化」ということも含めて「協力する」ということを真面目に考える人の存在というのが、実はイノベーションを起こす上での必要条件なのです。まさに北九州活性化協議会が、その役目を果たしているのだと思いますし、そこをもっと強力にしていくことが非常に重要であると思います。

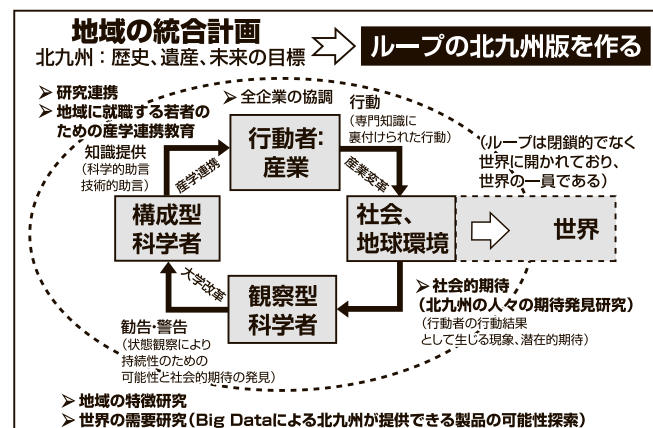
科学・工学と産業の統合。これがイノベーションを起こすのです。では、どうやって統合するか。私が提案するのは、「構造的協力による漸次的進化のループ」です。観察型科学者（人文・社

会・生命・自然科学分野の科学者）が、世の中を観察分析し、そこで何が起きているのかを知り、観察の結果をもとに勧告・警告を行う。それを受けた構成型科学者（人文、社会、工学、農学、医学分野の科学者）が「こうすればいいよ」と言うような助言を行う。それによって産業が行動する。その結果、社会や地球環境が変化する。このように情報を循環させながら進化の構造を作るのです。

そして私は、この進化のループの北九州版を作ることが大切であると思っています。まず、北九州の人々が何を求め、北九州の産業が何を期待しているのかを研究する。それを受けて、観察型科学者による研究と、それに基づく勧告・警告が行われる。続いて構成型科学者の研究と知識提供が行われる。そしてポイントとなるのは産学連携。具体的には「地域に就職する若者のための産学連携教育」及び「産学研究連携」です。

イギリス南部の都市サザンプトンにおける産学連携の事例を紹介します。サザンプトンには、同地区にある中小企業の代表者たちとサザンプトン大学の学長含む教授たちで構成する委員会があり、その会合の中で「どのような教育をすれば、この地区にとって有効な学生を輩出することができるのか」ということをじっくりと議論しました。その結果、どのような人材が必要であるかがわかり、サザンプトン大学は、地域企業に就職するために最適なカリキュラムを用意したコースを作りました。それによって卒業生が、サザンプトン地区の企業にたくさん就職しただけではなく、地元企業群とサザンプトン大学とのコミュニケーションが盛んになり、新しい共同研究に発展しました。産と学が、目標を共有して真剣に議論する共同体として成立したときに、産学連携ができるという好例です。

次に大切なのは、全企業の協調。企業は互いに競争すべきものではありませんが、「競争」と「協調」は、矛盾するものではないと思うのです。協調と競争と言うものが深く進むことによって、北九州全体が持っている産業力を最高に発揮するためのネットワークとは一体何なのかを追求することにつながっていく。それは日本の一つの大きな規範となり、日本の産業の振興に役立つと信じています。



産業人材育成フォーラム事業3年目を迎えて順調に!

平成23年5月に産学官協働で発足させた「北九州地域産業人材育成フォーラム」は、KPEC産学連携研究会の報告を踏まえた計画編成とその事業化を進め、設立から3年を経過。青少年から社会人までを対象にした産学連携による産業人材育成の総合的計画であるフォーラム事業は、厚生労働省、経済産業省等のヒアリングを受けるなど、我が国の重要課題である産業人材政策の特徴ある取り組みの一つとして注目を集め、計画の事業化による「見える化」が期待されている。

■着実に拡大する「地域連携型インターンシップ事業」

2016年4月に入社を予定する今の大学2年生から、就職活動の日程が繰り下げられ、会社説明会は3年生の3月、選考活動は4年生の8月、正式内定は10月の解禁となる。採用に直結する就業体験は禁じられているが、学生と企業が上手に出会えるインターンシップを実施する企業が増えている。こうした環境の中で、フォーラムが実施する「地域連携型インターンシップ」を実施する企業が101社に、参加学生も300人を越えた。

	H25年度		H24年度		H23年度	
	参加	登録	参加	登録	参加	登録
参加大学	4	4	4	4	2	2
参加学生	122	164	121	159	59	62
参加企業	73	80	57	63	33	42
実施企業数	101 (240%)		86 (204%)		42 (100%)	

■MBAサテライトフォーラム&連携講座を開催

地域の経営人材育成を目的に、「MBAサテライトフォーラム」(13.8.30)を開催。ダイバシティ社会の到来を踏まえ、テーマは「ダイバシティ社会の到来：女性による社会変革へのチャレンジ」。人材としての女性に注目し、女性ならではの人材育成、事業創造について考えた。会場は、定員一杯の150人の女性リーダー、新しいビジネスを考える“きらめき女性”などが参加。サテライトフォーラムでは、株式会社 エムスクエア・ラボ代表取締役 加藤 百合子氏が「今だからこそ、女性が社会イノベーションを起こす!～起業の軌跡と女性起業家への期待～」と題して講演。その後、日本経済研究所 チーフエコノミスト 鍋山徹さんがコーディネーターとなって、パネルディスカッションを実施。北九州の地域で活躍する経営者や女性役員など、各界の女性リーダーにより、「女性をキーにした多様な力を生かす組織創り」について、学びから具体的な行動へとつなげる多面的なプレゼンテーションがなされた。



パネルディスカッション風景

■九工大で北九州地域企業学内説明会の実施

平成24年度に続き、産業人材育成フォーラム関連企業を対象にして、「北九州地域企業学内企業説明会」(13.7.6)を開催。北

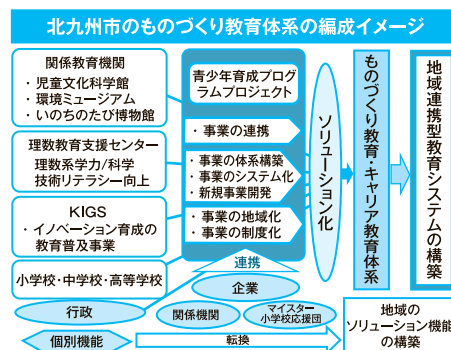
九州地域の中堅・中小企業19社と学生延べ114人が参加し、熱心な就職相談会となった。ちなみに24年度の参加企業(39社)には11人が就職をした。



企業の説明を聞く学生

■青少年育成プログラム事業いよいよ始動

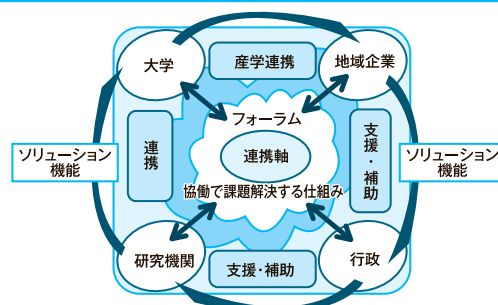
産業人材育成フォーラムの最後の開発プログラムである「青少年育成プログラム」が動き出した。青少年育成プログラムは、国を挙げて進める早期工学教育(ものづくり教育・キャリア教育等)の北九州版を創発する取り組み。100年余の産業史を持ち、今日まで多様な産業分野の企業が集積する北九州において、北九州型(産学連携)“ものづくり教育&キャリア教育”モデルの編成が目標。まずは、「北九州市における関係機関の早期工学教育の実施状況調査」から事業をスタート。



■産業人材育成フォーラムは、新しい産業基盤のためのソーシャルキャピタル

「産業人材育成フォーラム」は、産学連携を基本理念として、ステークホルダーが自らの役割を果たしながら、地域的に連携する自立型連携を特徴にした新しい地域システム創りを目指している。地域産業の基盤となる産業人材の育成という共通価値(CSV:C=creating Shared Value)の創造に地域が一丸とな

って取り組み、「産学連携」による新しい教育のためのソーシャルキャピタル





小学校応援団 活動報告



平成23年10月に北九州の企業人による小学校応援団は発足し、平成24年度より支援事業を始めた。平成24年度は小学校からの要望が少なかったので応援団が提案した支援プログラムを試行するようになったが、これにより一定の評価を得ることができ、平成25年度には前年度20件から49件へと実行件数が大幅に増加した。

■応援団による出前授業

企救丘小学校への出前授業「憧れの職業」～児童の感想文の一部を紹介～

・保育士 協力：東筑紫短期大学

体も心も脳も一番成長する時期だから、保育士の仕事は大切だと分かった。保育士は子育ての手伝いをしたり、子供が小学校に入学したときに困ることがないように教育する大切でやりがいのある仕事だと思いました。

幼稚園では、子供が悪いことをしたときは怒るのではなく、「友達を泣かせて気持ちよかった？」などと聞いて、子供に考えさせてもう二度とさせないようにすることが分かりました。将来お母さんになる人にもためになるので、もっと保育士さんの話を聞きたくなりました。そして、保育についてもっと知って小学校の先生という将来の夢に役立たせることはないか探したいです。



・システムエンジニア 協力：KCS北九州情報専門学校

プログラマーはゲームの他にも生活に役立つ沢山のシステムに関わっており、とても役立つ仕事だと分かった。ゲームクリエイターは種類によって、それぞれ必要なものが違うことも分かった。プログラミングを幾つもの工程があって、途中でダメなところがあるため検査に対する想いが伝わった。自分も役に立てるプログラマーになりたいと思った。



・新聞記者 協力：毎日新聞西部本社

新聞で一番大切なことは、いろいろな人から話を聞くことだと分かりました。

新聞記者として大切なことは、話を聞く人と同じ目線であることでした。朝から晩までいろんな場所に足を運んでいるけど、誰とでも会えて話を聞けるのでやりがいのある仕事だと思いました。



・パティシエ 協力：ケーキハウスこうのとり

アイデアなどを含めると、1つの物が出来上がれまで10年かかるものがあると知り驚きました。パティシエさんが言うように「今日よりも明日、明日よりも明後日」と前向きに過ごしていこうと思いました。私の将来の夢は料理人です。料理人もパティシエも「お客様の幸せ」を考えることに変わりなく、今日の講演を聞いて、料理人への夢が膨らみました。

・消防士 協力：小倉南消防署

消防士になるためには、試験に合格し、6か月間消防学校で必要な知識・心構えを学ぶ必要があります。そして、火災が発生した場合すばやく対処できるよういつもトレーニングを積んでいます。寝ている時でも火災が起きるとすぐに出動し、消火に向かわないといけないので大変だと感じました。

■教員対象のマネジメント研修に講師派遣

「企業が求める人材」「クレーム対応」などをテーマに11件実施

平成25年12月、TOTO(株)より講師を派遣していただき、八幡西区小学校校長会-研修会において、経営理念、リスク管理、クレーム対応について講演していただいた。

リスク管理活動で見える化-共有化が大切であることを再認識したほか、「大きく騒いで小さくおさめる。」「チャンスも危機も人次第」といった考えを学んだ。

クレーム対応の説明では、東京都教育委員会のマニュアルとの比較など教育現場に沿った研修となっており、有意義な研修とのご意見いただいた。



八幡西区小学校校長会 研修会



1000人の夢寄金



平成24年9月18日市民の都市格（教育力・文化力）向上を目的とし活動をスタートした1000人の夢寄金事業も2年目を迎え、寄付事業および助成金事業を拡充してきた。寄付事業については1口3,000円を基本とした寄付募集以外の新しい形としてチャリティーや遺贈などにも取り組んだ。また、助成事業については平成25年4月1日第1回助成（10先応募、決定4先、1,349,000円）〈KPECnews Vol.58にて報告済み〉を実施し、引き続き平成25年10月1日第2回助成（14件応募、決定6先、1,900,000円）を実施した。

■寄付事業

・寄付金募集

平成25年4月から平成25年9月までの期間で「1000人委員会」の募金活動により、228件、総額1,785,942円のご寄付をいただきました。1口3,000円の基本寄付以外にも企業のパザー売上代金、香典返しの一部寄付、チャリティー事業など新しい形での寄付金も受け入れていただいた。

・寄付金イベント

開催日：平成25年11月26日（火）

場 所：九州ゴルフ倶楽部八幡コース

1000人の夢寄金・チャリティーゴルフコンペを開催しました。初めての大きなイベントにもかかわらず25組96名の方々にご参加いただき、寒風吹く中、皆様の温かいお気持ちと熱いプレーで大会を盛り上げていただきました。ご参加の皆様からは総額288,000円を北九州市内で地道に活動している個人及び団体に対しご寄付いただいた。



■第2回助成先の決定（平成25年10月1日）

・応募 14件

・助成先 6件（助成金額計 1,900,000円）

助成先団体名	事業名	事業概要
佐々木 玄	ZK/U Berlinに於ける滞在制作及び展覧会の開催	ZK/U Berlinは最先端の現代美術作品の展覧会を開催するとともに、世界各地の新進気鋭の美術作家に滞在制作及び作品発表の機会を与えるプログラムを実施している。年間13名しか選ばれない狭き門を突破
北九州インスタレーションプロジェクト実行委員会	インスタレーションプロジェクト「都市のファンタジー」展の開催	空きビルや町中のデッドスペースを利用した空間芸術作品を作成し街の魅力向上につなげる。
創を考える会・北九州	「北九州のディテール展」	市内にある歴史近代建築に着目し、北九州市の財産を再認識し、発信する展覧会を開催
ひびきの親子遊び研究会	ひびきのであそぼう～あそびはまなび子どもと親の出会いの広場	子育てを支え、子供たちがあそびながら学べる場を確保する。
北九州国際ビエンナーレ2013実行委員会	北九州国際ビエンナーレ 2013	子アートと社会の新しい関係を北九州から発信していく
福田寛季を応援する会	「HIROKI FUKUDA GRADUATION SPECIAL CONCERT2013」～感謝の思いを込めて～	現役高校生によるコンサート開催。高校生・施設入所者等400名を招待。北九州芸術劇場予定 実施日：平成26年2月11日

■寄付のお願い

1000人の夢寄金事業の趣旨及び寄付状況等をホームページでお知らせしています

(<http://www.kpec.or.jp/yume>) 今後とも皆様の支援をお願いいたします。

■助成金についてのお知らせ

平成26年度から当分の間、助成金募集を年1回とさせていただきます。

助成募集期間 7月15日～31日

事業対象期間 10月1日～翌年9月30日

もったいない総研の活動

もったいない総研は、世界の環境首都を目指す北九州市の環境政策を踏まえ、「環境未来都市」の実現に向けて、市民・企業・大学・行政の協働の場づくりと「もったいない精神（こころ）」の普及のための情報交流機会の創出を行っている。平成25年度は下記の事業に取り組んだ。

■もったいないスクール2013

「環境和歌 in 曽根干潟」の実施・・・（一社）北九州青年会議所と協働

「曽根干潟」への想いを和歌や川柳・俳句で歌い上げることで、より関心を高め、持続可能な地域資源の実現を目指した。



■ライトダウン&キャンドルナイト北九州2013

電気を消して、灯火を見つめながら、家族・大切な人・私たちの住む地球環境について少しでも考える時間と空間を共有するきっかけ作りを行った。



■食と農のプロジェクト

食育エコロジスト 波多野穀氏やマクロビオティック・インストラクター 天野朋子氏から「Native Life～懐かしい未来のライフスタイル」と題して講演を行って頂いた。



■環境「もったいない」作文

未来を担う子供たちが環境問題への関心を深めることを目的として、北九州市PTA協議会と共催し、北九州市内の中学2年生へ「環境」をテーマとした作文を募集した。343件の応募があり、優秀作品として8点を選出した。



■もったいない塾（講演会）

春季：「アースデー北九州2013～森で集会 in かなん～」

小倉南区長野で有機野菜の栽培・販売をしている「やさいのかなん」を会場に、こだわり野菜直売場や近くの森の中で、鳥や昆虫の話をしたり、体に良い食べ物の話をした。

秋季：山形県発のドキュメント映画「よみがえりのレシピ」上映会の開催



ひまわり塾 ～第21期が研究成果を発表

「ひまわり塾」は、企業人と市職員が協働して“まちづくり”について学習し考える講座として北九州活性化協議会と北九州市が共催で実施している。第21期グループ研究発表会を平成25年7月12日（金）ステーションホテル小倉にて開催した。

テーマ：「映像」を通して北九州市の新たな魅力発見・発信！	グループ名：ハッピーひまわり号（市職員5名、民間5名）
テーマ：外国人に対して「おもてなし」できる社会の実現に向けて	グループ名：チームGFC（市職員6名、民間4名）





北九州イノベーションギャラリー事業紹介

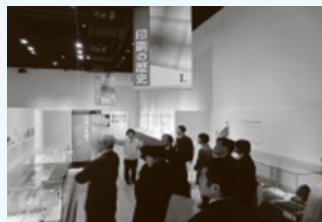


1. 企画展示事業

産業技術・デザインおよびイノベーションに関連したテーマについて独自の視点から、下記の企画展を開催した。

春企画展	ヒトと共にあるロボット展
夏企画展	船のなるほど展
秋企画展	食品加工イノベーション展
冬企画展 特別展示	色イロひろがる 印刷発見展 九州鉄道大蔵線

- ①春企画展では、ヒトの動きをサポートすること、安心・安全を守ることなどに特化したロボットを紹介した。
- ②夏企画展では、船のしくみ、船ができるまでの解説、幅広く活躍するいろいろな船の種類のほか、未来につながる次世代の船、未知の世界である深海探索船まで、幅広く紹介した。
- ③秋企画展では、地元をはじめ、日本を代表する食品メーカーのイノベーションに関して、歴史や人物、製品などを交えて紹介した。
- ④冬企画展では、印刷の歴史や仕組みから、情報コミュニケーションツールとしての印刷の姿、印刷技術に応用した新たなソリューションまで、さまざまな印刷のテクノロジーを一堂に紹介した。



2. 教育普及事業

(1) イノベーションフォーラム

我国を代表するイノベーションリーダーと青年世代の研究者を抱き合わせた2部構成とし、より包括的に科学技術の可能性等について学生に教示することができた。

【基調講演】

「今後の日本の科学技術イノベーションと次世代への期待」
吉川 弘之氏／独立行政法人科学振興機構（JST）
研究開発戦略センター長

【特別講演】

「イノベーションの源泉としての太陽系探査」

矢野 創氏／独立行政法人宇宙研究開発機構
（JAXA）宇宙科学研究所助教



(2) 技術革新講座

地球的規模のテーマであるエネルギーの枯渇と低炭素化において、「日本のエネルギー利用最前線」を年間テーマに取り上げ、紹介した。

- ①日本のエネルギー事情と石炭の高度利用の最先端
金子 祥三／東京大学生産技術研究所特任教授
持田 勲／九州大学炭素資源国際教育研究センター
特任教授
- ②風のエネルギー利用事情最先端
伊藤 正治／独立行政法人新エネルギー・産業技術総合
開発機構（NEDO）自然エネルギーグループ
主任研究員
本田 明弘／三菱重工業株式会社技術統括本部
長崎研究所ターボ機械研究室主席研究員
- ③地球と太陽のエネルギー利用事情最先端
田箆 功一／西日本技術開発(株) 執行役員地熱部長
日本地熱学会評議員・国際地熱協会理事
山岡 弘明／三菱化学(株) 理事・
情報電子本部OPV事業推進室長
- ④新技術が生み出す国産エネルギー最先端
藤井 靖彦／東京工業大学名誉教授、放送大学非常勤
講師、東亜学園高等学校理事
瀬古 典明／日本原子力研究開発機構
- ⑤シェールガスやメタンハイドレードは、我が国エネルギーの
救世主か？
小野 章昌／エネルギーコンサルタント（元：三井物産(株)）



(3) デザイン講座

①小学生高学年を対象とした「壁掛け時計のデザイン教室」を2日間にわたり開催。作品は夏休み館内にて展示した。

②大人向けに「古着のデニムや端布を直したおしゃれなバッグをデザインしてみよう!!」と題し、2回にわたり参加者が作成したデザインをプロが実際に縫製。「九州デザインサミット in 北九州2013」市民作品展に出品し・展示された。

③「きり撮りつづる!～北九よかとこフォトグラフ」

北九州で活躍している、写真家：坂本マスオ氏による作品解説つき映写会。北九州市内の知られざるスポット、ハッとさせられるアングル、思わず見惚れる美しい風景などの被写体に込めた想い、構図づくりや撮影のワザ等についての講話いただいた。



(4) ものづくり講座

一般対象の講座を2回、「北九州マイスターに学ぶ溶接技術・旋盤技術」などの大学生、工業高校生を対象とした出前講座や実技講習を4回実施した。



(5) その他

市民講座、たたら製鉄、工作教室や見学バスツアーなどの主催事業、サマースクールや世界一行きたい科学広場などの東田3館の連携ワークショップも積極的に実施した。



3. 調査研究事業

産業技術の保存と次世代への継承を目的として、国立科学博物館、技術士会などと連携し、自主調査研究を行うとともに共同研究や委託研究を行った。

※それぞれ随時、報告会を実施していく予定

①「北九州における溶接技術の歴史と発展」の調査・研究

・当館調査研究部門の監修のもと、公益社団法人日本技術士会九州本部の宮田守次氏、同技術士会メンバーを含め特任研究員として委託し、調査報告書を作成した。

②「北九州におけるモータドライブ技術の歴史と発展」の調査・研究

・当館調査研究部門の監修のもと、技術士山本正治氏を特任研究員として委託し、調査報告書を作成した。

③「イオン交換樹脂の技術系統化調査」の調査・研究

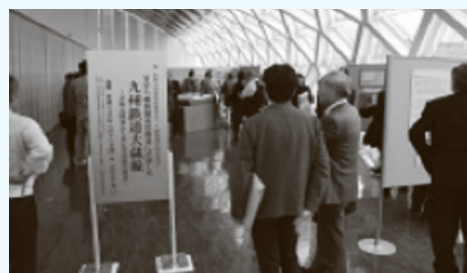
・国立科学博物館（産業技術史資料情報センター）と共同研究にて我国の技術の系統化調査研究の一環として取り組み、調査報告書を作成した。

④「マイスターによる効果的な技術指導 ～ワイヤロープ加工作業～」の調査・研究

・当館調査研究部門及び工房長監修のもと、北九州マイスター技能伝承倶楽部に委託し、調査報告書を作成した。

⑤「九州鉄道大蔵線」の調査・研究・当館職員（郷土史家）の永年に亘る調査研究成果を集大成し、調査報告書を作成した。

※「九州鉄道大蔵線」については、冬に特別展示として、約3カ月一般公開した。





公益財団法人 北九州活性化協議会 平成26年度事業計画



公益目的事業

1. 環境を未来に引き継ぐ事業

KPEC10周年を期に創設された「もったいない総研」事業を総括し、時代や地域のニーズ踏まえて、環境未来都市の構築に向けた環境づくり支援を行う。

1) 「もったいない総研」の再編にかかる企画研究事業

- (1) 「もったいない」をキーワードとした地域活性化事業の企画開発と事業化研究

2) 環境未来都市構築支援事業

- (1) 「環境未来都市」の実現に向けて、市民・企業・大学・行政の協働の場づくりと「もったいない精神(こころ)」の普及のための情報交流機会の創出。
- (2) 「えこっパー」のブランディング及び普及にかかる企画・研究の実施

2. 産業人材を育成する事業

1) 北九州産業人材育成フォーラム事業

地域の中堅・中小企業の経営力強化と産業人材の育成をすることを目的に「北九州地域産業人材育成フォーラム」を編成し、産学官協働による産業人材育成事業を企画・実施する。

(1) 高度人材育成プログラムの企画、運営

- ① 地域連携型インターンシップ事業の開発・実施
 - ・産学連携によるインターンシップ事業の実施
(目標:参加校:5校、参加企業100社、参加学生:200人)
 - ・インターンシップの実践的活用事業の開発、事業化検討
- ② 「地域連携型インターンシップガイドCD(改訂版)」の作成
- ③ 「学生のための北九州企業発見ツアー」の実施
(目標:参加校:4校、実施回数:4回、参加者:200人)

(2) 社会人育成プログラムの企画、運営

- ① 中堅・中小企業の中核専門人材育成に向けた環境開発
- ② 中堅・中小企業の経営人材育成に向けた環境開発

(3) 青少年育成プログラム事業の企画、研究

- ① 早期工学教育の実態調査と事業化研究の実施
- ② 藤田哲也博士をコンテンツにした青少年特別プログラムの企画・研究

(4) 産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備

- ① フォーラム企業会員の募集登録の促進
- ② 「産業人材育成セミナー&産学交流会」の開催
- ③ 北九州地域企業対象学内説明会の開催
- ④ 「北九州産業人材育成フォーラム」ホームページの運用

3. 次世代を担う人材を育成する事業

1) 「北九州の企業人による小学校応援団」事業

「北九州市立小学校への教育支援に関する協定書」に基づき、(公財)北九州活性化協議会及び市教育委員会と連携し、小学校校長会、PTA協議会等と協働して、北九州地域の有志企業が参加する「北九州の企業人による小学校応援団」事業を企画・実施する。

(1) 保護者に対する支援

- ① PTA活動支援
- ② 「親学」支援

(2) 児童の学習支援

- ① 出前授業
- ② 体験・見学受け入れ

(3) 教職員の研修支援

- ① 講師派遣
- ② 体験研修受け入れキャリアアップ支援

(4) 小学校応援団事業の拡充

- ① 支援対象校の拡大
(モデル校13校から40校に)。
- ② 学校担当コーディネーターの編成
- ③ 小学校応援団参加企業の増強
- ④ 小学校応援団参加企業を増強し支援体制の強化を図る。
(151社、から300社に)
- ⑤ 支援メニューの拡充と講師登録の推進

(5) 小学校応援団事業の運営環境整備

- ① 三者連絡会議の運営
- ② 事業運営体制の改正

(6) 応援団事業の広報、プロモーション事業の実施

小学校応援団事業の周知を図るため、広報ツールの作成及び広報プロモーションを実施する。

4. 都市格(教育力・文化力)を向上する事業

1) 「1000人の夢寄金」事業

北九州市の都市格向上を目的として、教育および文化分野における市民活動への助成を行う「1000人の夢寄金」事業について、体制整備と認知度の向上を図る。

(1) 「1000人の夢寄金」募金事業

- ① 寄付募集体制の確立
- ② 寄付金受け入れ体制の構築

(2) 「1000人の夢寄金」助成事業

- ① 助成事業の募集
- ② 助成先の選定

(3) 広報・プロモーション事業の実施

- ① ホームページ及びFacebookの運営
- ② 「1000人の夢寄金」事業報告会の開催

2) その他関連事業

- (1) 北九州ミュージックプロムナードの支援

5. まちづくり推進事業

1) まちづくり事業

(1) まちづくりの調査研究事業

公益財団法人としての組織的環境を活用し、「新しい公共」による地域づくりの視点を踏まえた地域活性化事業の研究、開発を行い、事業化の方向性を検討する。

①「KPEC事業開発研究会(通称:新しい公共研究会)」の編成

(2) ABLEサロンの開催

地域社会の課題や地域政策などを会員企業及び地域活性化に取り組む市民等と共に学び交流を促進することを目的として「ABLEサロン」を企画、開催する。

(3) 情報受発信の強化

①KPECニュースの発行

- ・発行回数 : 1回/年
- ・発行部数 : 2000部程度

②ホームページの運営

専用ホームページの充実を図りKPEC活動情報をタイムリーに発信する。

2) 地域づくりネットワークの推進

(1) 北九州地域経済団体連携フォーラム事業の実施

北九州市内の経済団体による「北九州地域経済団体連携フォーラム」を編成し、各種の情報の共有と事業運営における連携、協働の環境づくりを行う。

- ①「世界に広がる北九州の明日を考える講演会」の開催
- ②協力事業の実施

(2) 北九州市にぎわいづくり懇話会への参画

ビクターズ・インダストリー創出を目的とした「北九州市にぎわいづくり懇話会」に参し、行政と協働でにぎわいづくり事業の企画、実施を行う。

(3) 地域づくりネットワーク福岡県協議会への参画

「地域づくりネットワーク福岡県協議会」へ参画し、地域活性化施策の研究、調査及び研修を行うと共に、北九州市域の地域づくり団体との橋渡しを行う。

6. 北九州イノベーションギャラリー指定管理者事業

平成26年度は指定管理期間の最終年であり、事業の集大成を図ると共に平成27年度より始まる第3期指定管理事業を見据えて、北九州市及びKPECをはじめとした地域関連機関との連携を強化し、KIGSの設置目的を踏まえた事業運営体制の整備を推進する。

1) 教育普及に関する事業の企画、運営

次世代の北九州を支えるイノベーターを育成していくため、小中学生から一般市民まで幅広い世代の教育普及事業を実施する。

2) 調査研究に関する事業の企画、運営

技術の本質を明らかにする調査研究を行い、技術への興味を喚起するような本質的な技術教育プログラムの展開を目指していく。

3) 企画展示に関する事業の企画、運営

当施設の基本テーマである「イノベーション」を中心にその実例を伝える重要な事業であり、年4回実施(春・秋・冬・春)及び特別展等を企画、開催する。

春:「(仮称)未来へ夢をつむぐ、せんいのチカラ展」

夏:「(仮称)サンダーバード博」

秋:「(仮称)山川健次郎/藤田哲也展」

「(仮称)メタルズ!ー金属造形の潮流-展」

冬:「(仮称)音のふしぎ展」

4) 映像・図書等収集及び公開に関する業務の企画、運営

(仮称)「浚渫技術の先駆者と北九州の港湾整備」の映像を製作する。

法人運営業務

KPECの運営基盤としての経営力強化と運営体制の整備を実施する。

1. 会員募集と会員サービスの向上

1) 会員募集の強化

賛助会員募集を行い、財務、運営双方の経営体質強化を図る。

2) 会員サービスの向上

KPECが実施する各種地域活性化事業への案内及び情報提供の徹底を図り、会員との協働による地域活性化事業の推進体制を構築する。

2. 寄付事業の推進

KPEC事業活動および「公益財団法人」としての税法上優遇措置についての認知度向上を図り、KPECの位置づけを広報し、地域活性化に資する寄付金募集の事業化を検討する。

3. 地域連携促進事業

1) 「スポーツ振興チケット」事業

「サッカーを通じた青少年育成事業ースポーツ振興チケット」の活用を促進し、地域活性化のシンボルである「ギラヴァンツ北九州」を支援する。

4. 新規指定管理事業の検討

第3期KIGS指定管理受託と共に、新たな指定管理事業の受託について検討を進める。

実験いろいろ!
楽しく学べる

開館7周年記念

未来へ夢をつむぐ

せんいのチカラ展

せんいを
見る

せんいを
比べる

せんいを
感じる



衣類・日用品から
エコ・ハイテク製品まで



開館7周年記念特典

- ① 先着2,000名の来場者へ「綿花の種」をプレゼント(有料観覧者に限る)
- ② 「場内クイズ」全問正解者へ粗品進呈(期間中随時)

2014.3.21 **祝** → 6.29 **日**

北九州イノベーションギャラリー「企画展示ギャラリー」

福岡県北九州市八幡東区東田2-2-11 Tel.093-663-5411 <http://www.kigs.jp/>

開館時間 9:00～19:00 (土・日・祝日は17:00まで) ※企画展への入場は、閉館時間の30分前まで

休館日 毎週月曜日 ※祝日の場合は翌日

観覧料金 一般:500円 学生(小中高):250円 ※団体30名以上は2割引、障害者割引有り

- 主催/北九州市、北九州イノベーションギャラリー
- 後援/北九州市教育委員会、北九州市PTA協議会、北九州商工会議所、JR九州、西鉄バス北九州線
- 監修/日本化学繊維協会、日本紡績協会、日本羊毛紡績会、炭素繊維協会
- 協力/小倉クリエーション



KIGS
北九州イノベーションギャラリー
産業技術保存継承センター
KITAKYUSHU INNOVATION GALLERY & STUDIO
指定管理者 公益財団法人北九州活性化協議会